

ばんけい

教育ほつとにゅーす  
かわら版こ みち  
教育の小径 No.165  
2022 July  
7月号

(一財)総合初等教育研究所 参与

北 俊夫先生



今月のことば

敗軍の將は  
兵を語らず

失敗した人は、そのことについて弁解や意見を述べる資格はないということです。「兵」とは戦いのことで兵士の意味ではありません。

## 子どもの発言をいかに組織するか

- 授業ではたびたび話し合い活動が取り入れられています。ところが、子どもたちの発言に関連性が乏しく、発言が組織化されていないことが気になります。
- 発言を組織するとは子どもの発言をつなげ、話の内容を深めていくことです。教師は子どもに発言力をつけ、話し合いのルールを指導します。

## 話し合いのどこが問題なのか

研究授業などの場で配布される学習指導案には、「○○○について話し合う」と記述されています。ここから、話し合いをとおして主体的に学習に取り組む態度を養いたい、子どもたちの思考や理解を深めたいという、授業者の願いやねらいが伝わってきます。

話し合うという活動は、子どもたちが授業に主体的に参加することです。友だちと協働して学び、質の高い授業をつくるために行われる行為です。主体的・対話的(協働的)な活動をおとして、深まりのある学びを実現させていくものです。話し合い活動には、このような重要な教育的な価値やねらいがあることを押さえておきます。

話し合っている場面を観察していると、子どもの発言が発表や説明や報告といった一方的な表明で終わっています。互いに意見などを伝え合うことで終わっていることも気になります。子どもたちによる「話し合い活動」になっていないのです。

子どもたちの発言が単発的です。直前に発言した子どもの内容を意識しないで発言しているようです。また、友だちというより、教師に向かって発言する姿勢がみられます。自分が考えた

自分の考えというより、教師の期待している内容(答え)を発言しようとする傾向が強くみられます。

そのため、子どもたちの発言内容に相互の関連性が乏しく、「話し合い」の内容に変容と深まりが感じられません。自分たちでよりよい考えを導き出そうという姿勢もみられません。

## 発言をつなげるポイント

話し合うとは、国語辞典によると、物事の理解を深めたり問題を解決したりするために互いに意見を出し合い、相談することとあります。

このことを踏まえると、授業における話し合い活動とは、教師の発問やあるテーマについて議論すること、討論することだといえます。単なる発表や報告や説明ではありません。話し合うとは、子どもたちが互いに顔を見合いながら、考えや情報などの発言内容が相互に行き交い交流することです。

話し合い活動を成立させるために大切なことは、教師が疑問詞を含めて発問したりテーマを設定したりすることです。「どうしたらよいでしょうか」「なぜでしょうか」などと問いかけることで、子どもたちは自分の意思や考えをもとうとします。

また、直前に話した人の発言内容を

受け、内容をつなげて話すよう促します。具体的には賛成(同意・同調)、反対(異論)、質問(確認)、他の意見(拡散)などの視点から自分の立場を明確にさせます。意見の表明を意思表示するとき、指で合図をするハンドサインを取り入れると、立場や意見の傾向が周囲の人にもわかります。教師は意図的に指名することができ、子どもたちの発言をつなげ、話し合いを活発にすることができます。

学級で話し合うとき、子どもに相互指名させるなど、子ども任せには話し合いが深まりません。発言力の強い子どもがリードしたり、話がはい回ったりするからです。話し合う場面では、ねらいを押さえている教師の意図的な指名が重要になります。教師は発言内容の論点を整理しながら板書します。意見の多様性や違いを見える化することで話し合いが活発になります。

話し合う前に自分の考えをノートなどに記録させます。話し合いができるよう机をコの字や口の字など対面型に配置します。なぜ話し合うのか。話し合うとはどういうことなのかを子どもたちに説明することも大切です。

友だちの意見に集中して聞き入り、発言をつなげながら自分の考えを活発に言い合っている声が各教室から聞こえてくることを期待したいものです。

## 今月の記念日

7月11日

## 世界人口デー

1987年のこの日、世界の人口が50億人を越えました。これを受け、国連人口基金が人口問題への関心をもってもらうと1989年に定めました。

## トイレのにおいは何点？

近年、家庭はもとより、学校や公共施設、駅などのトイレが以前にも増して明るく、清潔な空間に生まれ変わってきました。かつてトイレは4K(臭い、汚い、暗い、怖い)といわれ、よいイメージはありませんでした。

幼稚園に通っている男の子が、家庭でお父さんが用を足したあとにトイレに入りました。そのときのことを「トイレ」というタイトルの詩に表したのです。トイレをネタにすることそのものがすでにユニークです。

詩は全体で6行です。前半の3行は「おとうさんのあとに／トイレにはいったら／くさかった」です。このあと、4行目を飛ばします。5行目以下は「においがして／ちっそくしそよかった」と、締めくくられています。「ちっそくしそよかった」の表現から、においをかいたときの息ぐるしさと大変さが伝わってきます。

さて、この男の子は4行目にどのように表現したと思いますか。(少し考えてから先を読み進めてください。)

いろいろな言葉を思い浮かべたことと思います。多くの人は、「くさい」「くるしい」「いやな」などと想像したのではないかと思います。中には「うんちの」と入れた人もいるかもしれません。いずれも味気ない表現です。

この男の子が書き表した言葉は「えいようまんてんの(栄養満点の)」です。おとなはトイレのにおいに対してすでにネガティブな先入観をもって、「満点」は付けませんね。

この詩は、「読売新聞」(平成6年3月15日付朝刊)の投書欄で紹介された「子どもの詩」です。詩の評者も「脱帽」したと記載していました。

## 教育の動向

### 教員採用試験の倍率問題

7月になると、各地で来年度の教員採用の試験がはじまります。文部科学省は、令和3年度採用の公立学校教員採用試験の倍率を公表しています。小学校の倍率は2.6倍。前年度の2.7倍を下回り、過去最低でした。平成12年度は約1.3倍もありました。

教員採用試験の倍率が低い理由に、学校に対するブラックイメージを指摘する声があります。「教職は子どもを育てるやり甲斐のある仕事だ」と精神論だけでは、もはや魅力を感じないのかもしれませんが。職場環境を抜本から改善することも必要になります。

現在、教員の資質能力の向上に向けて、養成・採用・研修の一体的な改革が話題になっています。採用試験は一般の試験問題のほか、小論文や面接、模擬授業などさまざまな工夫がなされています。しかし、教員を目指す学生が減少しているという課題の根本的な解決にはなっていません。

小学校教員の養成に携わっている先生から「倍率が低下しているのに、真剣に勉強をする学生が少なくなった」「教員免許を取得しても教員を目指さない学生が多い」などの話を聞いたことがあります。学校や教職に対する魅力が低下しているのでしょうか。

教員採用試験の倍率低下は、教員をめぐる労働環境や条件など構造的な問題が背景にありそうです。

## 北俊夫の「実践と研究」の足あと 33

### 文部省から大学へ

文部省から岐阜大学に異動したのは平成12年(2000年)の11月。翌年の1月に省庁再編を迎えていました。年度の途中から、教員養成という新しい生活が始まりました。教員を目指す若い学生と関わることは楽しいことでした。若返った気持ちになりました。大学では、主に社会科教育や生活科教育、教師論などを担当しました。

各地域や学校から講師の要請を受けることもありました。それらのなかには、社会科を重点教科にして校内研究を行っている学校もありました。それまでとは違って、ごく普通の学校にうかがうことが多くなりました。

大学での講義の合間をぬって、ある学校に出かけたときです。社会科の授業を参観してびっくりしたことが

あります。それまで、問題解決的な学習を展開することを推奨してきましたから、当然そのような授業が展開されるものと思っていました。ところが、社会科の教科書を国語科の教科書のように読み上げながら、重要な語句や箇所を確認していく授業だったのです。

意欲的に学ぶ態度や思考力、判断力、表現力などの資質・能力を重視する「新しい学力観に立つ教育」が叫ばれてすでに10年近くが経っていました。ところが、学校の現場は旧態依然の状態、何も変わっていないことに気づいたのです。当時、授業づくりの新しい考え方が教室にまで届いていなかったことを思い知らされました。

各学校に新しいことが認識され、当たり前のこととして実践されるようになるまでには、まだまだ時間がかかることを実感しました。

## INFORMATION 自分で学ぶ力がつく! 欲しい!が見つかる!

おススメ!5教科 1~6年

当該学年の復習に、前学年までの復習をプラス

充実の付録

- 見やすい3色刷り縮刷解答
  - まとめのテスト(国・算)2枚
  - わくわく夏休み(予定表・日記)
  - 読書感想文の書き方
  - 夏みつけカード(1・2年)
  - デジタルふろく
- 「夏のわくわくデジタルランド」



問題量や教科で選べるラインナップ!



## 編集後記

ポストコロナ社会に向けて、今年度は小学校でも「脱マスク」の動きがみられるようになってきました。政府は子どもの学校でのマスクの着用について「体育の授業では必要ない」としましたので、学校では授業の場面や児童の様子等に応じて、細かい判断が求められると思います。(F記)



企画・編集：ばんげい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2022年7月1日